

12月3日

アジアの殉教者と フランシスコ・ザビエル

(1506.4.7~1552.12.3)

～日本最初の宣教師～

日本聖公会ではこの日を「アジアの殉教者とフランシスコ・ザビエル」の記念の日としています。12月3日に、ザビエルは亡くなったのですが、ここではそのザビエルについて取り上げます。

フランシスコ・ザビエル (Francisco de Xavier) はスペインのナヴァラの城主の子どもとして生まれました。しかし彼の父が戦いに敗れ、ザビエルの家は落ちぶれてしまいます。その時、ザビエルは家を建て直すためには学問しかないと考え、パリ大学に進みました。そこでパリでイグナティウス・デ・ロヨラという人物に出会うのですが、ザビエルはそのロヨラから感化を受けます。さらにロヨラから、生涯をキリストにささげるように誘われていきます。

1534年、ザビエルは4年もの間自分を誘ってくれたロヨラと他の学生5人の合計7人で、清貧と貞潔、そしてキリストに対する従順を誓い、宣教に献身することを決めます。これが後にイエズス会となっていくのですが、ザビエルの心をとらえたロヨラの言葉は、「全世界を儲けても、自分の魂を失ったなら、何の益がある」というものでした。

その後ザビエルは1537年に司祭となり、イタリアで活動します。さらにインドへと渡り、ゴアやトラヴァンコーアで数万人に洗礼



「フランシスコ・ザビエルの死」

フランシスコ・デ・ゴヤ

1746~1828

を授けたとされています。

そして1547年、マラッカにいたザビエルのもとにヤジロウという一人の日本人が現れます。ザビエルは彼から日本の話を聞き、洗礼を授けた後、二人のイエズス会員と共に日本へと向かいます。

1549年8月15日、ついに日本に上陸したザビエルは、日本人を今まで出会った人々の中でもっとも優れていると評価しながら、日本の各地で宣教し、数百人に洗礼を授けていきます。その後、山口、豊後で宣教した後インドに戻り、中国へと行こうとしましたが大陸までは行きつかず、広東に近い上川島で熱病にかかり、その生涯を終えました。

彼の遺体はインドのゴアにありますが、その体は今もなお腐らずに置いてあるとされています。

<特禱>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにアジアに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン